



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

ABMアタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター対象 スキルアップ講座

Attachment Kids Massage

アタッチメント・キッズマッサージ インストラクター養成講座



AKMアタッチメント・キッズマッサージ インストラクター養成講座



講座概要

「AKM アタッチメント・キッズマッサージ」は、ABM アタッチメント・ベビーマッサージの上級編の位置づけとなる0歳児向けメソッドと、1～6歳児向けの発達段階に合わせたキッズマッサージのメソッドで構成されています。

「ベビーマッサージ上級編」は、子どもの皮膚とマッサージの関係や、東洋医学における「つぼ」の知識を背景にしたベビーマッサージを学びます。これは、ベビーに限らず、キッズにも応用できます。

さらに、ベビーマッサージを卒業した子どもと親が取り組む親子マッサージとして、キッズマッサージのメソッドを学びます。対象年齢は1～6歳で、「1～2歳」「2～3歳」「3～6歳」と3つの時期に分けられています。このキッズマッサージの手法は、開始年齢以降であれば、大人にまで有効です（但し、各マッサージの心理的背景は、それぞれ



それぞれの年齢帯（発達段階）に合った「発達の課題」を、親子で取り組むマッサージを通して体験することが出来ます。

このプログラムは、ベビーマッサージ教室において、ベビーマッサージを卒業した親子のためのプログラムとして、多くのインストラクターや保育士、看護師、助産師が展開しています。また、一緒に学べるアタッチメント・ジムと組み合わせることで、教室のメニューに広がりが出ると共に、幅広い対象年齢に対応することが出来ます。



資格取得フロー

AKMアタッチメント・キッズマッサージ
インストラクター養成講座 受講

認定試験（筆記）
認定試験（実技）

合否審査

認定申請

受講後の認定試験に合格後、
認定申請によって認定証が
発行されます。



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会 認定

AKMアタッチメント・キッズマッサージ インストラクター資格・取得



資格の意義

教室プログラムを充実化し、活動の幅を広げる

ベビーマッサージ教室を運営していく上で、ご縁のあった親子に対して「いかに楽しんでもらうか」、そして「いかに長いご縁を育むか」というのは、教室の存在意義を高める鍵であり、教室運営そのものの鍵となります。そこで重要となるのは、「バリエーション」と「年齢対応性」です。

「バリエーション」: ベビーマッサージなど1つのバリエーションで展開するよりも、2つ、3つのプログラムを組み合わせることで変化を持たせた方が、楽しく、そして長く続けてもらえます。本講座は、ベビーマッサージの応用として「ベビーマッサージ上級編」と「キッズマッサージ」を学ぶことができます。これらを、ベビーマッサージなどと組み合わせることで、様々なアクティビティで親子を楽しませる教室プログラムが可能となります。



「年齢対応性」: ベビーマッサージだけで教室展開していると、1歳になった時に卒業が来てしまいます。お母さんとしては、交流の場として、もっと長く教室に通いたいニーズがあります。ですから、年齢を重ねても取り組めるプログラムを用意することで、より長く親子に通ってもらえる流れを作ることができます。「AKA キッズマッサージ」は、0～6歳まで対応しており、発達段階に応じたアクティビティの提供が可能となります。また、心の発達の間でも、0～6歳までに対応した知識を修得することができます。この年齢対応性を高めることにより、より長く通ってもらえるだけでなく、兄弟姉妹の参加も促すことができます。



これは、自宅教室や広場事業などの固定教室に限らず、体験会などの単発企画やカルチャーセンターの教室などの展開においても、活動の幅を広げることにつながります。



カリキュラム

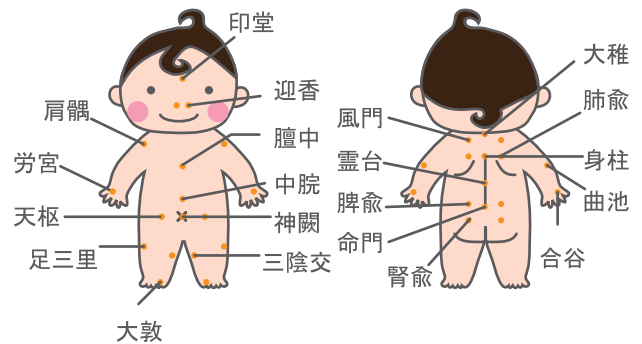
ベビーマッサージ上級編

子どもと皮膚

1歳からの子どもの体を、ベビーマッサージの振り返りも兼ねながら、皮膚とマッサージ、心の発達との関係性について、小児保健の観点から学びます。

東洋医学・つぼ

「東洋医学」では、「つぼとはどんなものか？」から始まり、つぼマッサージのメカニズムなどを学びます。さらに、理論で学んだ、つぼについて、事例から学びます。子どもの夜泣き・便秘・健康増進など…気になる症状別に効く、つぼの位置・マッサージエリアを学びます。



つぼの名称と位置

キッズマッサージ

発達心理学

1歳・2～3歳・3～6歳に発達段階を分けて、その時期に必要な、「アタッチメント・マッサージのテーマ」を学びます。0歳ならママに行ってもらえるマッサージ、1歳からは自分で自分にやってみるマッサージ、3歳からはパパやお友達にやってあげるマッサージなど、その時々の子どもの発達の課題の対象に対して行う、マッサージの必要性を学びます。

キッズマッサージ インストラクション

発達心理学でも紹介した、1歳・2～3歳・3～6歳の心の発達段階に合わせた、マッサージのテーマと、その時期に適した、キッズマッサージを実際に行ってみます。

体と心が成長していくキッズのための『特別なアタッチメント・マッサージ』、登園前・寝る前などに子どもに自信と安心を与える『おまじないマッサージ』や、ママが子どもに「生まれてきてくれてありがとう!」と気持ちを伝える『サンキューマッサージ』、また、保育園などで、お友達同士で取り組める「おともだちマッサージ」など、実践で使えるマッサージのやり方を学びます。



ママから子どもへ、サンキューマッサージ



ベビーマッサージ インストラクターとして、さらに幅広い子育て支援を目指される方へ

AKM アタッチメント・キッズマッサージは、ベビーマッサージのスキルアップ資格として、6歳までの発達課題に対応した親子マッサージです。

乳幼児期から、こうした親子マッサージに親しんでいけば、大きくなっても、良い習慣として続いていきます。それによって、思春期などの難しい時期でも、良好な親子関係を築けるだけでなく、不安な時に心を落ち着かせたりすることが出来ます。保育の現場や子育て支援、お教室、乳幼児健診、または病院の産科、小児科などにおいて、0～6歳児の親子と接する方々が、現場で活用して、最も重宝するプログラムです。

●資格取得後の活動事例



寺下 悦子さん 保育士・主任児童委員（福井県）

丸30年、保育士・幼稚園教諭をしており、現在はパート保育士、地域の主任児童委員などとして活動しています。インストラクター資格を取得して、最初は孫だけにやってあげるつもりでしたが、知り合いのお母さんに教えてあげたことをきっかけに、地域の児童館でベビーマッサージ教室をすることになり、現在まで約8年以上継続して開催しています。児童館では、2歳からのサークル講座があっても1歳からの講座がないという声をお聞きして、それではキッズマッサージをやらせてもらおうと月に一度行っております。静かに落ち着いてゆったりできることの大切さ、何気ない日常がどれだけ大きな役割をもっているのかを継続して感じてもらいたいという想いを持ちながら、活動しています。



鎌田 怜那さん 臨床心理士（佐賀県）

月に2回、1歳までの赤ちゃんとお母さんが参加できる保健師主催のサロンに出向いています。臨床心理士として乳児検診のスタッフも担当しているため、検診で会ったことのある親子がほとんどなので、お子さんの成長を積極的に伝えていきます。普通に話していても、困っていることは出てこないため、その時期特有の困りごとなどを私からいくつか挙げ、話しやすいように促しています。また、お子さんの発達を心配している母親には、発達を促すアタッチメント・ベビーマッサージを伝えています。また、兄・姉の悩みも多いので、その相談に応じたり、兄・姉に対してできるアタッチメント・キッズマッサージを提案し、家庭内の緊張が緩むよう、母親の気持ちを汲みながら関係づくりの提案をしています。



植戸 真紀さん スポーツクラブインストラクター（兵庫県）

スポーツクラブのカルチャー教室として、アタッチメント・キッズマッサージの教室を開催しています。ちょうどイヤイヤ期のお子さんも多いので、教室では上手く取り組めないこともあるのですが、お母さんたちには「教室で覚えてお家でやってみることを目標としてもらい、気張らずに取り組んでもらっています。知り合いのお子さんで、いちばん最年長で反抗期の女子高生にマッサージをしてあげたところ、親子関係が良くなり会話ができるようになったという方もいました。私の小学生の長女にもアタッチメント・キッズマッサージを応用してマッサージをしています。アタッチメント・キッズマッサージは私にとって一生のお付き合いになっていくと確信しています。





発達に応じたマッサージの手法を伝えていきたいです

発達心理学では、いろいろな事例を挙げて、分かりやすく説明していただき、『心の発達には、アタッチメントが欠かせないものであること』を再認識しました。

2～3歳の未就園児・3～6歳の幼稚園児の保護者に、発達に応じたマッサージの方法を、理論の裏づけをしながら、伝えていきたいと思います。

幼稚園教諭 59歳（愛知県）

教室運営の幅が広がりました

ベビーが大きくなってよく動くようになったときや上の子と一緒に来たときのアドバイスや接し方を学びたくて受講を決めました。講座内では、具体例も交えながら講義をしていただき、実技では他の方のやり方などいろいろ学ぶ機会をいただけてとても良かったと思いました。

保育関係 52歳（東京都）

「服を着たままでもOK」などの配慮もあっていろいろな風に展開できそうです

動く時期の子のマッサージってどんなものだろう？とっていました。受講して、「できるもののみでOK」「服を着たままでもOK」などの配慮もあっていろいろな風に展開できてとても勉強になりました。

健康運動指導士 34歳（山形県）

ベビーマッサージとはまた違う目的で行う部分もしっかり考えて伝えたいです

参加できて良かったです。キッズマッサージはベビーマッサージの延長の部分と、違う目的で行う部分をしっかり考えて伝えたいと思います。

会社員 39歳（北海道）

マッサージを子どもが自分でやったりと考えるもみなかった内容で驚きました

マッサージを子どもが自分でやったりと考えるもみなかった内容で驚きました。発達心理学や運動科学を学んでみて、これをお母さんをはじめ保護者が知っていれば、よりお子さんに合った関わり方ができたり、もっとよくお子さんを知ることができると思ったので、わかりやすく説明して、広めていきたいと思います。

助産師 32歳（北海道）

単に「ベビーマッサージの延長ではない」ことが学べました

ベビーマッサージを教えていると、「上の子にしても良いですか？」「何歳までしても良いですか？」と、聞かれることが多かったので受講しました。キッズマッサージを学んだことで、ただ単に、「ベビーマッサージの延長としてのマッサージではない」ことを学ぶことが出来たのが非常に良かったです。

栄養士 55歳（大分県）

今後の子育てにとっても役立つことが多々ありました

ベビーマッサージを学んだ時よりも、納得できる部分が多くさんあり、今後の子育てにとっても役立つことが多々ありました。自分の子どもをはじめ、自分が運営しているサロンで今回学んだことはしっかり生きてくると思います。

子育て支援事業 27歳（宮崎県）

「アタッチメント」の必要性をより感じました

アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター養成講座で学んで「アタッチメント」の大切さは理解していたつもりでしたが、対象年齢が上がるキッズの発達心理学を学ぶことで、さらにベビーの時期からの「アタッチメント」の必要性をより感じました。年齢別にその時その時、子育ては大変だと思いますが、「なぜダダをこねるのか」「なぜいやいやなのか」等、子どもの発達の段階のメカニズムがわかれば、子どもへの対応も変わってくるので、そういったことも伝えていきたいです。

会社員 42歳（東京都）

「してもら」から「やってあげる」への成長を感じられます

わが子が赤ちゃんから幼児へ成長していくと、少しずつ自分で何でもやってみたいという自我が芽生え、母親としては成長がうれしい反面、少し寂しくもなります。けれど、このキッズマッサージのサンキューマッサージやギフトマッサージ、また、セルフマッサージの子どもが楽しんで「してもら」から「やってあげる」「自分で自分の体を大切にすること」に出会う、とても素敵でなんと幸せな成長を見るのだろう！と感動しました。親として「見守る」立場を喜んで味わいたいと思います。

ベビーマッサージインストラクター 36歳（三重県）

AGMアタッチメント・ジムと一緒に学んでいただくのが効果的です

アタッチメント・キッズマッサージは、6歳までの心の発達(情緒)を促す営みで、同じく6歳までの体と動きの発達(運動)を促すのがアタッチメント・ジムです。そして、心の営みと体の営みを通して、知能(認知)が育まれます。子どもの発達というのは、いつも「心(情緒)」と「体(運動)」と「知能(認知)」とが、関連し合っただけで成長します。だから、心の営みと体の営みをバランスよく取り組むことが重要なのです。

その様な観点から、当協会では、「心のアタッチメント・キッズマッサージ」と「体のアタッチメント・ジム」をセットでご受講いただくことを推奨しています。そのため、この2つのセット講座は、他の講座と同様に土日の2日間でご受講いただけるようになっており、またセット割引(20,000円割引)を設定させていただいております。是非ご利用ください。



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会 監修・認定

アタッチメント・キッズマッサージ インストラクター養成講座

<https://www.naik.jp>



お問い合わせ



一般社団法人
日本アタッチメント育児協会

TEL : 052-265-6526 Email : info@naik.jp

〒456-0002 愛知県名古屋市中熱田区金山町1丁目13-14 アールワン金山3F FAX : 052-265-6529